おける現在の問題点や今後の進展の方向を強く打ち出しているものばかりです．その発展のためには，国際間の協力が重要であることは言うまでもありません．同時にまた，個々の問題の進展に，たとえば信楽の MU レーダーのような，新しい観測技術が役立っていることも明らかです．

ここまでの研究成果をふまえ，シンポジウムでは，さらに新しい国際協同研究が議論され提案されました．MASH (Middle Atmosphere of the Southern Hemisphere) もそのひとつです．

会議の合間に，外国からの参加者達はみな，京都市内や近郊の素晴らしい名所旧跡を訪れたり，日本独自の生活習慣—特に食事など—に接したりして，異国での滞在を楽しむことができました．参加者の多くはまた，シンポジウムの前後の期間を利用して，あちこちの大学や研究所を訪れ，講演を行ったり，日本の若手研究者達と討論をかわしたりする機会に恵まれました．

今回のシンポジウムの主催者をはじめ，日本の皆様から頂いた暖いおもてなしに対し，われわれはこころからお礼の言葉を述べたいと思います．そして，いつかまた機会があれば，もう一度日本に行ってみたいと願っています．1985年1月，ベルリンにて（原文獨逸語，廣田勇訳）．

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所
月例会「第29回山の気象シンポジウム」	昭和60年6月15日		気象庁
第22回理工学における同位元素研究発表会	昭和60年7月1日～2日	関係諸学協会共同主催	国立教育会館
International Cloud Modelling Workshop /Conference	1985年7月15日～19日	WMO	Irsee（ドイツ）
First WMO Workshop on the Diagnosis and Prediction of Monthly and Seasonal Atmospheric Variations over the Globe	1985年7月29日～8月2日	WMO	メリーランド大学（米国）
第19回 夏季大学「新しい気象学」	昭和60年7月30日～8月2日	日本気象学会	気象庁
関西支部（第7回）夏季大学「台風の話」	昭和60年7月31日～8月2日	日本気象学会関西支部	大阪府立労働センター
IAMAP/IAPSO 1985年ハワイ合同研究集会	1985年8月5日～16日		ハワイ州ホノルル
第23回国際地震学・地球内部物理学協会（IASPEI）総会	昭和60年8月19日～30日	地震学会ほか	京王プラザホテル
第3回エアロゾル科学・技術研究討論会講演	昭和60年8月22日・23日	エアロゾル研究協議会	東京理科大学
日本気象学会秋季大会	昭和60年10月29日～31日	日本気象学会	大阪科学技術センター
極東域モンスーンに関する国際研究集会	昭和60年11月5日～8日	組織委員会・日本気象学会	東京大学海洋研究所
第3回アジア流体力学会議	昭和61年9月1日～5日	アジア流体力学会議委員会	日本都市センター